

令和7年度 教育研修センター研修支援に関する事業のモデル

教育委員会や学校のニーズに合わせて研修を支援していきます！

学校等の課題に応じ、相談の上、研修の支援を進めていきますので、
ご不明な点はお問い合わせください。

教育研修センター教育相談課 ☎0296-78-3219 (直通)



研修支援Ⅱ期申込みからの流れ

No.	項目	内容
1	研修計画書の作成（様式1-1） ※学校の研究テーマで申し込む場合は、授業参観を行う教科の分野で申し込んでください。	別表、研修計画書作成例を参照。 ※管理職、校内の研修支援担当者と共通理解を図って作成してください。
2	研修計画書の提出 市町村立学校 → 市町村教育委員会へ 県立学校 → 受付フォームへ入力 Googleフォームは要項を参照	申込期間は令和7年8月18日（月）から 令和7年9月3日（水）まで ※申込期間を過ぎた場合は、受付不可となります。
3	9月末日まで研修支援訪問の決定通知を待つ	決定の場合No.4へ 不可の場合、次年度にお申込みを検討ください。
4	訪問担当者との打ち合わせ 決定通知の発送後に、訪問担当者が学校等へお電話します。	①研修内容の確認 ②訪問日の決定
5	市町村立学校は、市町村立教育委員会へ実施日及び訪問者を報告 ※県立学校は該当しません。	No.4で決定した実施日及び訪問者等を、所管の市町村教育委員会の研修支援担当者に電子メール、電話等で報告してください。
注	訪問日決定後に変更する場合	①教育研修センターの訪問担当者へ連絡し、新しい訪問日を決めてください。 ②新しい訪問日を所管の市町村教育委員会の研修支援担当者に電子メール、電話等で報告してください。
6	訪問日2週間前までに学力向上プランを訪問担当者へ送付 ※1～10の分野を申し込む市町村立学校のみ	学力向上プランを送付した学校は、訪問時に学力プランの進捗状況についてご説明いただく時間を設定してください。
注	訪問日2週間前にまでに学習指導案等を訪問者へ送付 ※研究授業を実施する学校のみ	
7	研修資料の印刷 訪問日3日前までに訪問担当者から研修支援担当者へ送付します。	当日、大型モニター又はプロジェクターをお借りする場合があります。 ※事前に訪問担当者との打ち合わせで確認します。
8	研修支援訪問当日	学力向上プランを送付した学校は、学力向上プランの進捗状況についてご説明ください。
9	研修報告書を作成して提出 ※令和8年2月末日まで	既に提出済の様式1-1に連結させて提出してください。

研修計画書

令和7年4月※日

学校名又は 教育委員会名	立	学校	電話
校長又は代表者	校長	担当者職氏名	教諭
実施時期	7月	会場	本校会議室
時間	B 半日	実施形態	研究授業・研究協議
番号・分野 (1つのみ)	13・特別活動	参加人数 全教員数	20人 25人
学校の研究テ ーマ又は研修 支援のテーマ	互いに認め合い、よりよい学級を築こうとする児童の育成 (研修テーマ)		
テーマに関す る学校の現状 ・課題	学校評価アンケートやQ-Uテストの結果を見ると、児童の 自己有用感や自己肯定感が低いことが分かる。「役に立ち、 認められたい」という気持ちはあるが、教師主導の特別活動 になってしまっており、自治的能力が身に付いていない。		
これまでの対応 (取り組んだ研 修等)	夏季休業中に、特別活動主任が中心になり、学級活動(1)話 合い活動について、校内研修を実施した。模擬学級会を通し て、話合いの進め方について共通理解を図った。		
支援を希望する ねらい・目的 (分野・実施形態 に合わせてでき る限り詳細に)	これまで以上に、学級活動(1)の話合い活動を活発に行うこ とができるようにしたい。研究授業について協議を行うこと で、児童が折り合いをつけながら話し合うために、教師がど のような指導・助言をすればよいかを学びたい。また、話合 い後の実践等についても留意事項を知りたい。		
当日のタイムス ケジュール (案)	<p>13:15 ~ 13:25 講師来校 校長、担当者との打ち合わせ</p> <p>13:30 ~ 14:15 研究授業 ※年※組「※※※※※※」 授業者 ※※ ※※</p> <p>14:30 ~ 15:30 研究協議 進行：研究主任</p> <p>15:30 ~ 15:50 指導・助言</p> <p>15:50 ~ 16:00 リフレクション(振り返り)</p> <p>16:00 閉会</p>		

研修計画書

令和 7 年 4 月 ※日

学校名又は 教育委員会名	立	学校	電話
校長又は代表者	校長	担当者職氏名	教諭
実施時期	7月	会場	本校会議室
時間	C 2時間程度	実施形態	研究授業・研究協議
番号・分野 (1つのみ)	9・保健体育	参加人数 全教員数	10人 30人
学校の研究テ ーマ又は研修 支援のテーマ	研究テーマ 自分の考えを適切に表現する力を育む学習指導の在り方		
テーマに関す る学校の現状 ・課題	保健体育科の授業における、思考力、判断力、表現力等の育成を目指した対話場面の工夫に課題がある。		
これまでの対応 (取り組んだ研 修等)	学校全体で思考力、判断力、表現力等の育成を目指した対話場面の工夫している。自分の考えを表現する力を育むことを目指した校内研修を月に1回程度、職員会議の後に実施し、各教科における取組を報告している。しかしながら、それに先立つ、保健体育科としての手立ての検討や協議が十分にできていない。		
支援を希望する ねらい・目的 (分野・実施形態 に合わせてでき る限り詳細に)	保健体育科の授業における、思考力、判断力、表現力等の育成を目指した対話場面の工夫について、指導助言をいただきたい。研究協議は、保健体育科において育成する資質・能力について職員があらためて共通理解を図る機会としたい。また、今後研修を自校化できるよう、研究協議の進め方について、事前に相談したい。		
当日のタイムス ケジュール (案)	14:15 講師来校 ・校長、担当者との打合せ ・学力向上プラン等の説明 14:30～15:20 [50分] 研究授業 第1学年2組 器械運動(マット運動) 授業者 * * * * 15:20～15:30 [10分] 休憩 15:30～15:35 [5分] 開会・講師紹介(研究主任) 15:35～16:25 [50分] 研究協議「思考力、判断力、表現力等の育成を目指した保健体育科の授業づくり」 ※研究授業に対する指導助言を含む 16:25～16:30 [5分] リフレクション 16:30 閉会		

研修計画書

令和 7 年 4 月 ※日

学校名又は 教育委員会名	立	学校	電話
校長又は代表者	校長	担当者職氏名	教諭
実施時期	7月	会場	本校会議室
時間	C 2時間程度	実施形態	講義・演習
番号・分野 (1つのみ)	14・情報教育	参加人数 全教員数	35人 38人
学校の研究テ ーマ又は研修 支援のテーマ	ICTを活用した授業づくり～ロイロノート・スクール～		
テーマに関す る学校の現状 ・課題	ICTの活用において、職員間の格差がある。また、生徒は自らの考えをまとめて表現する力が乏しい。そのような環境を打破し、学校全体が積極的にICTを活用し、生徒がICTを効果的に活用して自分の考えを表現し、主体的な学びを展開したいと考える。		
これまでの対応 (取り組んだ研 修等)	生徒の主体性を育むための個別最適な学びと協働的な学びの一体を図り、思考力とプレゼン力の育成を育みたいと考え、昨年度、ロイロノート・スクールを導入した。職員は、これまでロイロノート・スクールのオンライン研修への参加や教務と情報担当を軸に、校内での研修を3回実施している。しかし、職員全体として実践的に活用できておらず、アプリの活用の定着を図っている。		
支援を希望する ねらい・目的 (分野・実施形態 に合わせてできる 限り詳細に)	ロイロノート・スクールを活用し、生徒の思考を可視化し、協働的な学びにおいて生徒の思考力やプレゼン力を育みたいと考える。併せて、学習評価としての活用にも生かせる知見を深めたいと考える。		
当日のタイムス ケジュール (案)	13:15 講師来校 校長・担当者との打ち合わせ、接続確認 13:30 講師紹介・日程説明(教頭) 13:35～15:35(適宜休憩) 講義・演習「ICTを活用した授業づくり ～ロイロノート・スクール～」 研究協議「実践に向けて」 ※演習後、実践に向けた研究協議の実施を 推奨しています。 15:35 研修の振り返り(まとめ・発表) 15:45 閉会		

研修計画書

令和 7 年 4 月 ※ 日

学校名又は 教育委員会名	立	学校	電話
校長又は代表者	校長	担当者職氏名	教諭
実施時期	7月、8月	会場	本校会議室
時間	C 2時間程度	実施形態	講義・演習
番号・分野 (1つのみ)	18・教育相談	参加人数 全教員数	28人 30人
学校の研究テ ーマ又は研修 支援のテーマ	よりよい人間関係をつくるための支援・指導の在り方		
テーマに関す る学校の現状 ・課題	生徒との信頼関係づくりに苦慮している若手教員の姿が見られる。生徒と教師の信頼関係づくりは、学習の基盤としても重要と考える。研修を行い、9月からの学級経営にいかしていきたいと考えている。		
これまでの対応 (取り組んだ研 修等)	月一回、職員会議の後、研究主任を中心に校内研修を実施している。生徒への声のかけ方、ソーシャルスキル、気になる生徒の情報共有等を行い生徒理解に努めている。		
支援を希望する ねらい・目的 (分野・実施形態 に合わせてでき る限り詳細に)	生徒同士の関係づくりである構成的グループエンカウンターを体験することで、実際に学級で実施できるようにしたい。講義の中に演習を取り入れていただく形で、生徒と教師の人間関係づくりの理論を学びながらスキルを向上させていただきたい。		
当日のタイムス ケジュール (案)	<p>タイムスケジュール</p> <p>14:15 講師来校 校長・担当との打ち合わせ</p> <p>14:30 講師紹介・日程説明 (教頭)</p> <p>14:35～15:30 (45分) 講義・演習 よりよい人間関係づくり (SGEの体験)</p> <p>15:30～15:40 (10分) 休憩</p> <p>15:40～16:25 (45分) 講義・演習 生徒との信頼関係づくり (アドラー心理学の理論と演習)</p> <p>16:25 研修の振り返り</p> <p>16:30 閉会</p>		

研修計画書

令和 7 年 4 月 日

学校名又は 教育委員会名	立	学校	電話
校長又は代表者	校長	担当者職氏名	教諭
実施時期	8月	会場	本校会議室
時間	C 2時間程度	実施形態	講義・演習
番号・分野 (1つのみ)	19・特別支援教育	参加人数 全教職員数	28人 28人
学校の研究テ ーマ又は研修 支援のテーマ	研修テーマ 児童（生徒）一人一人の教育的ニーズに応じた支援の充実		
テーマに関す る学校の現状 ・課題	① 特別支援教育における基本的な知識や個に応じた支援や指導方法の理解が不十分である。 ② 通常の学級にも、特別な教育的支援を必要とする児童（生徒）が複数在籍し、対応や支援に苦慮している。		
これまでの対応 (取り組んだ研 修等)	① 特別支援教育コーディネーターを中心に、特別支援教育における校内研修を月に1回実施している。 ② 特別な教育的支援を必要とする児童（生徒）の情報共有等を行い、児童（生徒）理解に努めている。特別支援担当者が、週に1回学年会に参加し、特別な教育的支援を必要とする児童（生徒）の情報共有を図っている。		
支援を希望する ねらい・目的 (分野・実施形態 に合わせてでき る限り詳細に)	① 特別支援教育に関する基本的な知識や個に応じた支援や指導方法について理解を深めたい。 ② 通常の学級における特別な教育的支援を必要とする児童（生徒）の行動面に関する課題について適切な対応方法等を知りたい。		
当日のタイムス ケジュール (案)	12:45 講師来校 校長・担当者との打ち合わせ 13:00 開会 13:00～13:50 講義・演習 14:00～14:45 研究協議 14:45～14:55 まとめ 15:00 閉会		